

温暖地での省力・高品質栽培を可能にするブルーベリー品種の育成研究

【背景と目的】

ブルーベリーでは個別収穫に労力がかかること、暑さ・乾燥に強く果実品質の優れる品種が無いことが課題である。これまでの交雑育種研究で、種間雑種の一部が単為結果性かつ房取り適性を有することを明らかにし、耐暑性・耐乾性の優れる日本在来野生種とブルーベリーの節間雑種作出に成功した。そこで、①温暖地での高品質・省力栽培を可能とする新品種の育成、②温暖地適応性や房取り適性を有する雑種の効率的な作出法の確立に取り組んだ。

【研究概要】

①前課題で選抜した有望な5系統について、現地適応性や果実品質、収量、房取り適性、市場性などを評価し、TB-02とTB-04を新品種として最終選抜した。TB-02は樹勢が強く豊産性の種間雑種で、果実は中粒で甘味が強く、摘み取り園の中生品種として適し、省力的な房取り収穫ができるので出荷にも適する。TB-04は、ハイブッシュとしては比較的温暖地適応性があり、果実が大粒で食味は極めて良好であることから、摘み取り園の早生品種として適し、契約出荷にも向く。

②新たに作出した種間雑種集団について生育・果実特性を調査し、その結果をもとに房取り適性等を有する個体の効率的な選抜法を考案するとともに、有望個体を選抜した。また、亜熱帯に自生する日本在来野生種等とハイブッシュとの節間雑種について諸特性を調査し、交配母本として有望な系統を明らかにするとともに、ハイブッシュとの交雑を行い、多数の戻し交雑個体を作成した。